

令和7（2025）年12月15日
総務・産業建設合同常任委員協議会

旧米山牧場跡地（柏崎市大字蕨野地内）廃タイヤ処理の状況及び今後の対応について

1 米山牧場の経過

昭和49(1974)年	柿崎町長が（財）新潟県農業公社に牧場設置を陳情
昭和51(1976)年	（財）新潟県農業公社が牧場設置事業を実施（柿崎町） ⇒事業費 133,128千円
昭和53(1978)年	（有）米山牧場へ有償で譲渡 ⇒譲渡額 155,565千円
平成2(1990)年頃	牧場経営を行いながら、廃タイヤの収集を行う ⇒牧場経営だけでは経営が成り立たないため
平成8(1996)年12月	（有）米山牧場破産宣告
平成12(2000)年5月	（農）柏崎畜産組合に牧場用地の所有権移転
平成13(2001)年4月	（農）柏崎畜産組合が放牧事業の実施を断念したため、他事業者による牧場用地内への新たな産業廃棄物の持込みが懸念されたことから、米山山麓の環境保全のため、柏崎市が当該地を取得 ⇒取得額 20,000千円（土地 19,000千円、建物 1,000千円）
平成9(1997)年1月1日	牧場用地内で火災発生（焼失程度枯草等 30,000m ² ）
平成17(2005)年4月6日	高畔地内で火災発生（〃 枯草 10,500m ² ）
平成19(2007)年4月30日	牧場用地を含む火災発生（〃 枯草等 55,000m ² ）
平成21(2009)年5月3日	大平地内で火災発生（〃 枯草 200m ² ）

2 廃タイヤ処理の進捗状況

(1) 着手前（令和3（2021）年度撮影）



(2) 令和7（2025）年10月撮影（埋まっているタイヤ搬出後）



(3) これまでの処理状況

	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
処理量 (タイヤ本数)	7トン (約1,000本)	487トン (約69,500本)	350トン (約50,000本)
累計量 (タイヤ本数)	7トン (約1,000本)	494トン (約70,500本)	844トン (約120,500本)
運搬処理費 (累計)	2,282千円	99,344千円 (101,626千円)	75,944千円見込 (177,570千円)

※令和5（2023）年度 現地までの搬出道路整備 15,856千円

3 今後の対応

廃タイヤの処理方法は、これまでと同様に、①廃タイヤの運搬・洗浄、②破碎処理施設への運搬、③破碎処理、④燃料として搬出の順で行います。今後は、埋まっている廃タイヤであることから、これまでよりも多くの時間と費用が必要と見込んでいます。

(1) 現地での搬出土砂量及び廃タイヤの運搬・処理量

搬出土砂量：1,800m³ 廃タイヤ運搬・処理量：530t（約75,000本）

(2) 現地からの搬出方法

まず、掘削した廃タイヤと土砂を仮置きするための道路や現地仮置場を整備します。その後、埋まっている廃タイヤを掘り出し、現地仮置場に運搬し、そこから廃タイヤを搬出します。



4 その他

現在、処理状況及び今後の処理方法を新潟県環境局不法投棄対策室などの関係機関と協議するとともに、財源について要望しています。

財源については、新潟県のみならず環境省、経済産業省などにも要望しております。現状は、難しい状況ですが、確保に向けて引き続き協議、要望してまいります。

こういったことから、現地仮置場整備は令和8（2026）年度に実施したいと考えていますが、廃タイヤの処理は令和9（2027）年度以降となることも考えています。

なお、現段階において、埋まっているタイヤが飛散、流出する恐れは少ないとともに、麓の集落などへの影響はないものと考えています。